

I.S 様 36 歳 男性 ステロイド静注でコントロールしていた重症アトピー性皮膚炎も簡単にコントロール

1 歳からたまに湿性が生じるようになった。中学までは運動クラブをしていて安定していたが、高校で運動しなくなり四肢屈曲部・顔にアトピー性皮膚炎が生じるようになった。皮膚科受診するようになり、悪化した時にステロイド外用する程度でコントロールできていた。

20 歳から顔の皮膚炎が悪化するようになり、ステロイドを定期使用。その後はステロイド使用間隔が徐々に短くなっていった。

就職後、23 歳で夜勤が始まり、アトピー性皮膚炎は全身性に悪化。ストロングタイプのステロイド外用を全身塗布するようになった

32 歳 大阪に転勤。大阪ではなぜか改善し、ステロイド不要期間が 8 か月続いたが、転勤後仕事が忙しくなるにつれて悪化傾向となり、ステロイド外用ではコントロールできなくなってきた。

ステロイド静注を行うクリニックに 2 年程前から通院をするようになり、ステロイド外用と併用してコントロールしていた。

しかし、2016 年 1 月、顔・頭皮に丹毒・蜂窩織炎が生じて総合病院に 1 週間入院。退院後はステロイド外用ではコントロールできなくなり、ステロイド静注クリニックに再び通院して 10 日に 1 回のステロイド静注治療を 3 回受けたが、先行きが不安になり当院を受診。

2016 年 3 月 9 日当院受診、同月 11 日より入院し 3 ヶ月間の入院治療を行った。

当初予想されたステロイド離脱によるリバウンドはほとんど生じなかった。普通なら排膿や滲出変化を伴う全身性の炎症が生じるところだが、バチルス入浴ケア (BSC) を行っているとなぜか反応が緩やかだ。その後も順調に改善し TARC4969→476 好酸球 11.8%→2.4%ほぼ正常値に低下し退院となった。退院時の使用薬はビタミン剤ビオチン内服のみ。

	基準値	2016/3/11	2016/4/11	2016/5/11	2016/5/25
TARC	450 以下	4969	1619 ↓	581 ↓	476
LDH	120~245	377	296 ↓	216 ↓	200
IgE	170 以下	1889	2021	1846	1480 ↓
好酸球	7%以下	12%	7% ↓	2.8% ↓	2%
POEM(自覚症) (0~28)	最重症者(20~28)	27	17 ↓	6 ↓	5

2016年
3月11日



2016年
5月25日



2016年
3月11日



2016年
5月25日

